

新東名高速道路

新東名高速道路は、首都圏と中京圏を結ぶ大動脈であるとともに、神奈川県内の都市間を結ぶ東西軸を形成する路線です。この道路は、慢性的な交通渋滞に陥っている東名高速道路と交通機能を分担することで、高速性・定時性を確保し、また、地震などによる災害発生時の緊急輸送道路や、東名高速道路の維持管理・更新時の代替路としての役割を果たす重要な道路です。

令和4年4月までに、海老名南JCTから新秦野ICまでの約21kmの区間が開通しました。現在、新秦野ICから新御殿場ICまでの約25kmの区間で工事が進められています。

また、一層の物流の効率化を図るための全線6車線化の早期実現や、計画ルートが未定である海老名南JCT以东の計画の具体化を図ることが望まれています。

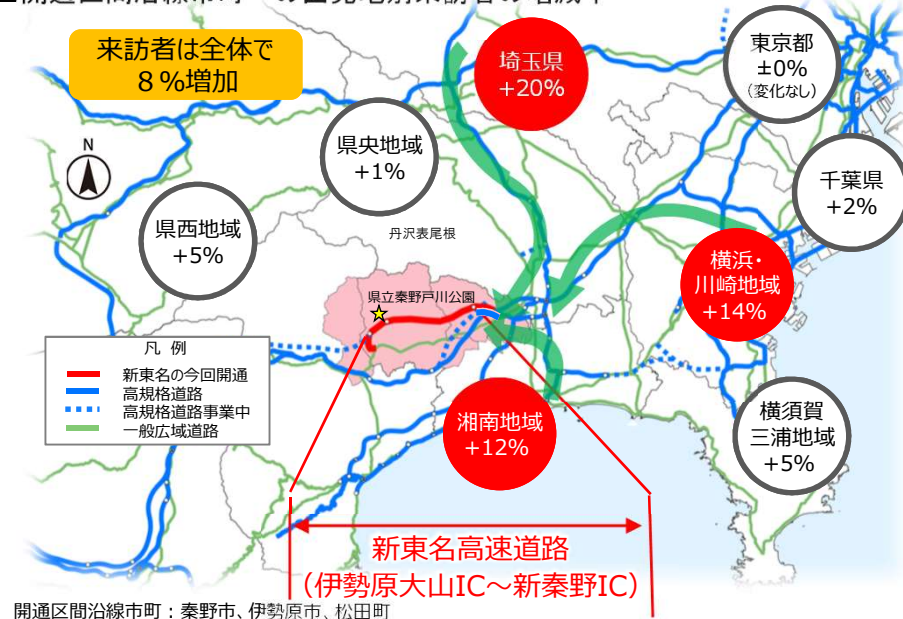


道路整備のストック効果

観光施設の来訪客が増加し賑わいアップ

- 新東名高速道路の伊勢原大山ICから新秦野ICまでが開通後、埼玉県や横浜・川崎地域などの都心近郊から開通区間沿線市町への来訪者数が10%以上増加しており、広域からの誘客増が図られています。

■開通区間沿線市町への出発地別来訪者の増減率



《観光施設の声》



新秦野ICからのアクセスが近くなったことにより、東京・県央方面から往来する来園客から大変好評です。

中日本高速道路㈱ 記者発表資料(R5.4.14)を基に作成